

情報活用能力を育んでいきます

これからの社会を生きるために必要となる情報活用能力は、子どもたちの学習の基盤となる資質・能力の1つであるとされています。GIGAスクール構想により、子どもたちの学びの環境を充実させ、ICTを活用した教育活動を通して、情報活用能力を育むことが求められています。

今回は、学校教育の中で子どもたちに育んでいく情報活用能力の内容について紹介します。



情報活用能力ってどんな力なの？

子どもたちに育む**情報活用能力**として、次のような資質・能力があげられます。

情報の収集

情報の整理・比較

情報の発信・伝達

情報の保存・共有

情報手段の基本操作

統計

プログラミング的思考

情報モラル

情報セキュリティ

など

どの力も子どもたちが情報や情報技術を活用していくときに必要な力です。



具体的にはどんなことなの？

例えば…

○ ICT機器の操作スキルを身に付けること

・「インターネット上の情報の閲覧や検索」「キーボードによる文字入力」など

○ 情報を整理したり組み合わせたりして表現する方法を身に付けること

・「目的に応じたアプリケーションの選択」「プレゼンテーションによる発信」など

○ 情報モラルを身に付けること

・「ネットワーク社会のルールやマナーの理解と適切な態度」など

○ 情報セキュリティについて理解すること

・「情報セキュリティに関する対策や対応の理解」など

情報活用能力の育成は、ICT機器を使った内容に限定されるものではありません。例えば、取材した情報を整理して、自分の考えが伝わるように内容をまとめたりする学習はICT機器を使わなくてもできることです。日常の全ての学習場面の中で情報活用能力に関わる資質・能力を育むことができます。

